



たから

～あいさつの響き合う家庭・学校・地域づくり～

「子ども熟議」を開催しました

生徒、地域住民、教職員、CS委員約80人がグループに分かれて、『渡、外江をよくするためにできること』というテーマで熟議を行いました。この秋企画した『地域でチャレンジ』に参加した生徒からは、「企画委員会の時に地域の方が優しくて意見がしやすいかった。高校生になっても参加したい。」と意見を伝えてくれました。保護者の方からは、「コロナ禍で行事の中止が多くて残念。でも、こうしてCSでの活動が活発になれば、地域での活動も盛り上がっていく気がします。」と話されました。



しっかり意見が言える三中生、頼もしいです

渡小・2年生



渡っこ農園で育てたサツマイモで、水落篤さんが焼き芋をしてくれました。外でお友達と食べる焼き芋は格別ですね。

三中・1年生、2年生



古文の暗唱を6名の地域のボランティアの方に聞いてもらいました。何度もチャレンジする生徒もいました。

外江小・4年生



外江公民館で卓球や茶道をしておられる方に「元気の秘訣は何ですか？」とインタビュー活動を行いました。

うれしい報告（外江小・しらお塾）

「漢字テスト、100点だったよ。」「賞状をもらったよ。」と嬉しそうにボランティアの方に話す児童。「マラソン記録会、去年より順位がおちた。」「漢字一つだけ間違えた。」と残念そうに話す児童。「すごいね。がんばったね。」「大丈夫だよ。またがんばればいいんだよ。」と返すボランティアの方。どんな報告でも子どもたちが話してくれることが嬉しいのです。



「子どもは地域のたから」と言われるように、地域の方にとって子どもたちは本当に可愛くて、元気をくれる存在です。子育て世代の方はどうでしょう？仕事や家事、育児に追われ我が子にすら時間を作れないといった悩みをお持ちの方も多いと思います。子ども同士でのトラブルが起こった時、親としてどう対処しますか？もう遊ばないように言いますか？大人になってからも人間関係のトラブルで悩みをかかえる人は多いです。子どもたちの世界も小さな社会だと思えば、いろいろなことを経験して自分で解決する力をつけるチャンスなのかもしれないですね。子どもが成長して大人になった時、悩みを相談できるのは、いつでも受け入れてくれる家族と信頼できる友達です。「友達はその子の財産」だと思います。